

【広島大学 戸田部会長挨拶】

- 中国地方国際物流戦略チーム部会における検討は、以前は『産業競争力の強化』が中心だったが、2011年3月11日の東日本大震災以降、『地域防災力』を加えた検討を行っている。
- 前回の中国地方国際物流戦略チーム第12回部会では、アジアを中心に大きく変化する国際社会経済情勢を踏まえた検討が必要であるとの意見が出された。例えば、国土交通省で実施しているコンテナ流動調査結果を踏まえた部会における検討が必要であるということ。本部会での報告は間に合わなかったが、事務局において今後、平成25年度コンテナ流動調査結果を踏まえた分析を行い、次回の部会において紹介してほしい。
- 中国地方国際物流戦略チーム事務局の平成25年度の取組として、今年度一年間かけて各地域（9箇所）で港湾利用者懇談会を開催してきた。各港を利用されている方からのニーズや問題点・課題等の把握を行ってきた。最後に徳山下松港・三田尻中関港を残すのみとなっている。
- 今回の第13回部会は、事務局が行ってきた港湾利用者懇談会で得られた意見等を基に資料を整理しており、部会としてどのような取組みが必要かということの提案をしていただきたい。

【物流関係企業】

- 民間のニーズと公の予算はマッチングが難しく、両者のスピード感に乖離がある。活力ある港づくりのためよく協議していきたい。
- 今回の部会は防災が議論の中心であったため、防災以外の地方の港の個別問題、貨物の集荷や創荷について、議題として取り入れてほしい。
- 参加される港湾利用者から意見が出やすいような形での利用者懇談会の開催を希望する。

【地方公共団体等】

- 平成26年1月に開催した鳥取港利用者懇談会では、荷役機械の整備、港内静穏度の確保の必要性などの意見が出された。引き続き、利用者ニーズの把握と予算確保に努めたい。
- 平成25年4月に浜田港に完成した新しい倉庫の活用により、コンテナの取扱量が伸びてきている。また、原木やロシア向けの中古車などもリーマンショック以降、徐々に回復しつつある。
- 平成25年11月に開催した浜田港利用者懇談会では、山陰道の整備促進、一般道路における港湾関係車両による輸送の円滑化などの意見が出された。
- 三大湾地域における事前防災・減災対策の必要性について説明があったが、三大湾地域に限定せずに、瀬戸内海、水島港を含めた背後にコンビナートを擁する港湾についても、事前防災・減災対策をお願いしたい。
- 民間と行政のスピード感に多少乖離があるとのことだったが、行政としても使いやすい港を目指し、ハードおよびソフト対策を行っていることから、民間企業の方の意見の把握に努めながら、対応していきたい。

- 平成 25 年度の利用者懇談会の開催は、港湾利用者の様々な具体的な話を聞くことができ、行政関係者としても非常に良かった。
- コンテナや雑貨の貨物の動きについて、対処療法的に取り組むということではなくて、これからの動きをいろいろと把握していきたいと考えている。
- 新たな貨物の集荷・創荷に向けて、行政としてもしっかりと取り組んでいきたい。それには平成 25 年度コンテナ流動調査データも活用したいと考えているので、国の協力も引き続きお願いしたい。
- 非常災害時の港湾機能の維持・早急復旧対策として、民有港湾施設（護岸等）の維持管理状況について立入検査、勧告等を行うこととあるが、今後、取り組み内容等について国に相談させてほしい。
- 老朽化・陳腐化した物流施設の再編・高度化について、港湾に立地する老朽化・陳腐化した倉庫を今後どうしていくかというのは非常に大きな問題となっている。こういったものの再編・高度化ができるようなスキームに加えて、クリアランスが出来るようになれば非常にありがたい。
- 国際バルク戦略港湾の整備促進に係る事業スキームについて、引き続き国に相談させてほしい。
- やまぐち産業戦略推進計画に基づき、国際バルク戦略港湾の推進、物流拠点港湾の強化を進めている。
- 国際バルク戦略港湾における官民連携について、引き続き国からの助言をいただきたい。
- 平成 26 年 1 月に開催した呉港利用者懇談会では、呉港マリノポリス地区貨物埠頭におけるヤード整備の促進について、非常に多くの要望があった。今般、ヤード整備が可能となり、今後、当該地区の利用促進に向けて、引き続き取り組んでいきたい。
- 平成 25 年 5 月に開催した境港利用者懇談会において得られた港湾利用企業の方々からの意見を港の整備等に反映させているところである。
- 境港については、外港中野地区の国際物流ターミナルの早期完成、竹内南地区の貨客船ターミナルの早期事業化を目指し、取り組みを進めている。

【中国地方国際物流戦略チーム事務局】

- 中国地方における国際バルク戦略港湾は、岡山県・広島県・山口県の 3 県にあり、それぞれの港によって事情や課題が異なっている。それぞれの港に応じた進め方で、国としても引き続き、自治体の方また民間企業の方と連携しながら着実に取り組みを進めていきたい。
- コンテナについては、5 年に一度行うコンテナ流動調査を今年度（平成 25 年度）に実施しており、来年度（平成 26 年度）には結果が判明する。調査結果よりコンテナの動きについて分析を行うとともに対策を打っていきたい。各港湾管理者にも協力をお願いしたい。
- 地方公共団体等の委員より「民有港湾施設への立入検査・勧告」や「老朽化・陳腐化した物流施設の再編・高度化」について意見があったが、これらの運用のやり方については、現在、国でガイドライン等の検討を行っているところである。

【有識者】

- 中国地方物流戦略チームの目玉であるバルク戦略港湾については、産業振興の視点から物事を考えて推進してほしい。
- 生産年齢人口が減っている中で、東京でオリンピックが開かれるという状況にあるので、今後、人手不足、若年労働者の不足というのはどこの地域でも深刻になってくる。この問題は物流業でも同じであり、物流業における人材確保・育成の視点を是非盛り込んでほしい。
- 港湾運営会社制度について、条文を見ると非常に不明確のように聞こえる。どのように運用するのかというのをきちんとこれから決めていかなければならない。その際に当然のことながら、ユーザーである港運や船社および実際の運営主体である会社、そのニーズを踏まえた形で制度設計の詰めを国としてやってほしい。
- 本日の部会において、『産業競争力の強化』と『地域防災力』について委員の方々から多くの意見をいただいた。産業競争力の強化についての議論をもう少しするべきとの意見もあった。
- 今年度行った港湾利用者懇談会については、当初はP D C A（Plan-Do-Check-Action）の視点が弱かったが、途中からその視点をもって利用者懇談会を開催できていた。そうすると、ニーズ（要求）とシーズ（提案）のマッチングが確認できる。今後とも利用者懇談会については常時続けてほしい。

【国土交通省 中国地方整備局 魚住港湾空港部長 閉会挨拶】

- 来週（3/18）、徳山下松港の港湾計画が東京で審議される予定で、徳山下松港・三田尻中関港利用者懇談会の開催については、来年度早々の開催を予定している。
- 本日、紹介させていただいた三大湾（東京湾・大阪湾・伊勢湾）における事前防災・減災対策について、地方公共団体等の委員より瀬戸内海を三大湾に加えてほしいとの発言があったが、現在、我々も瀬戸内海の災害対策について検討中であり、検討結果が出たら政策提言の中にも盛り込んでいきたいと考えている。今年秋に向けた政策提言の中で皆様の意見をいただきたい。
- 中国地方国際物流戦略チームはこれまでもバルクを中心にいろいろな取組や提言を行っている。輸出産業をはじめとする中国地域の産業の競争力強化、これを通じて、産業の育成・強化そして地域の振興に繋げていく、これが物流戦略チームの役割の一つだと思っている。
- 今後、皆様のご意見をいただきつつ、日本全体の動きにも注視しながら、今年秋の新しい政策提言あるいは具体的な施策について、見直しをしながらまとめていきたいと思っている。